



パーソナルプリポストプロセッサ

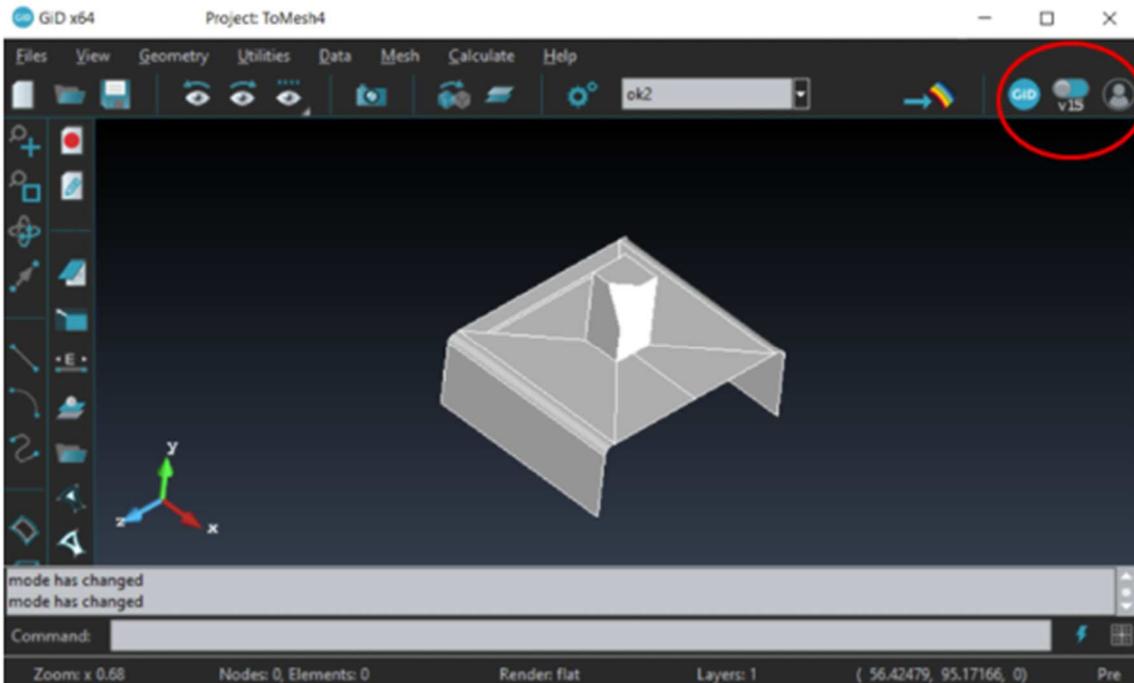
GiD

Version 15

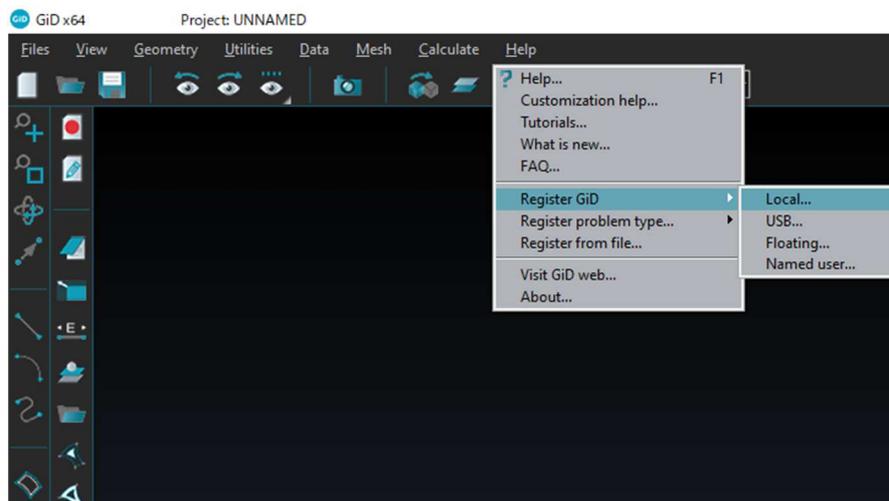
リリースノート

一般

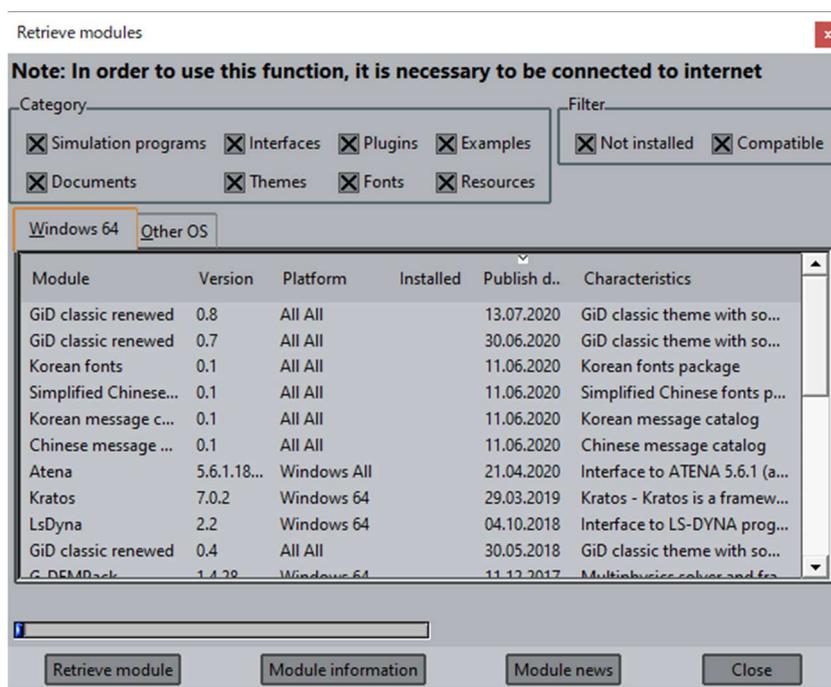
- ✓ GiD のライセンスタイプに“Named User”ライセンスが追加されました。
GiD のユーザーでログインすれば、どの端末からでも GiD が利用できます。



- ✓ 無料版の GiD の節点制限が 1 万節点までに増加されました。
- ✓ “Preferences—fonts” パネルから設定できる lcd サブピクセルレンダリング機能によって、グラフィックフォントが滑らかに描画できるようになりました。
- ✓ GiD のバージョンごとの設定が、それぞれのユーザー設定に保存されるようになりました。
- ✓ Problemtype で、ユーザー設定フォルダ内の追加フォルダが利用可能になりました。
- ✓ GiD の登録メニューが、ライセンスタイプごとに表示されます。



- ✓ コマンドウィンドウの行数が、設定画面から設定可能になりました。
- ✓ GiD の内部コードの設定と変数が再構成され、デフォルトでないものだけが保存されるようになりました。
- ✓ 動画の保存時に、新しい mp4 形式(その他に avi, webm, transparency)が追加されました。また、最大 200fps のビットレートがサポートされました。
- ✓ macOS において、GiD プロジェクト(拡張子が.gid のフォルダ)はアイコンで表示され、ダブルクリックで開くことができるようになりました。
- ✓ 日本語のインターフェースがインターネット経由でダウンロードして利用できるようになりました。

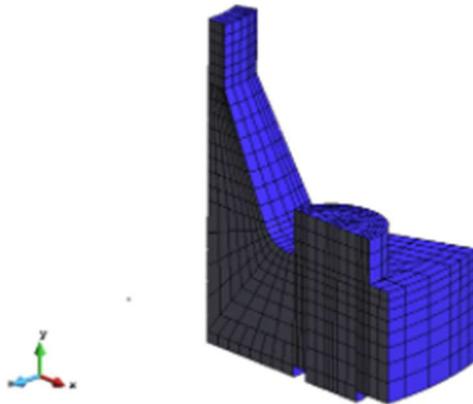


プリプロセス

- ✓ GiD メッシュフォーマット (GiD メッシュライブラリの入出力フォーマット) をインポートするための新しいインポートオプションが追加されました。
- ✓ Collada フォーマットのインポートをサポート。メッシュ、もしくはテクスチャとともに OpenGL のリストとしてインポートします。

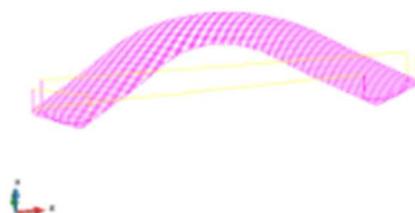


- ✓ Abaqus のフォーマット (.inp) のインポートがサポートされました。

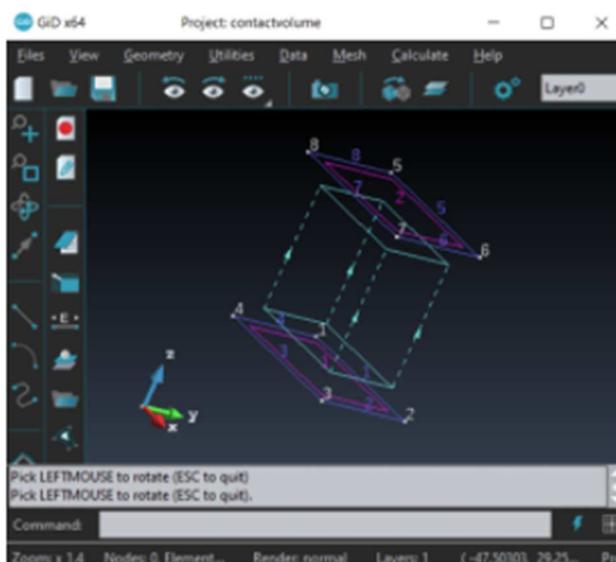


- ✓ 線要素の積層のインポートがサポートされました。

- ✓ Exodus II(HDF5)形式のプリプロセスメッシュのインポートとエクスポートがサポートされました。
- ✓ 3D プリンタなどに使用される G コード(マシンパスの制御)のインポートがサポートされました。

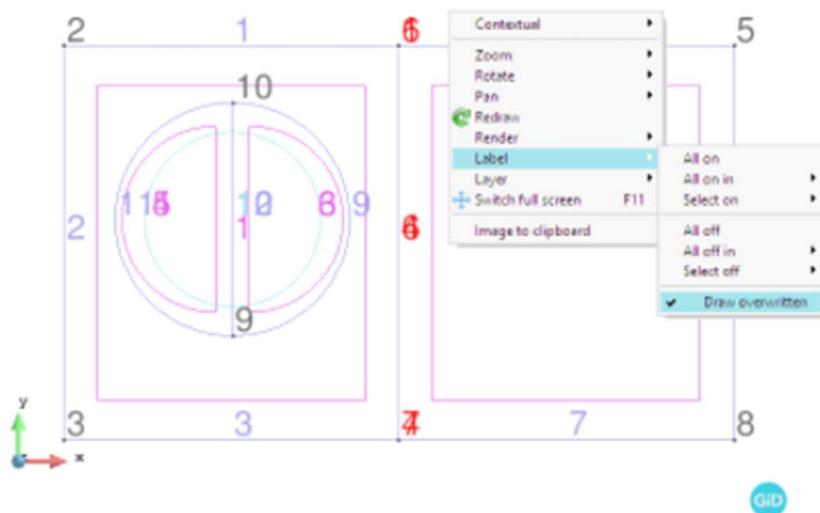


- ✓ ラスターGDAL 形式のインポート時に、節点のスムーズ値が入力できるようになりました。
- ✓ 線要素ごとに1つのジオメトリラインを作成できるようになりました。
- ✓ 構造ボリューム、および Semi 構造ボリュームで、ボリュームへの強制ポイントがサポートされました。
- ✓ 接触ボリュームのビジュアルが評価されました。マスター/スレーブサーフェスを結ぶラインを描画します。



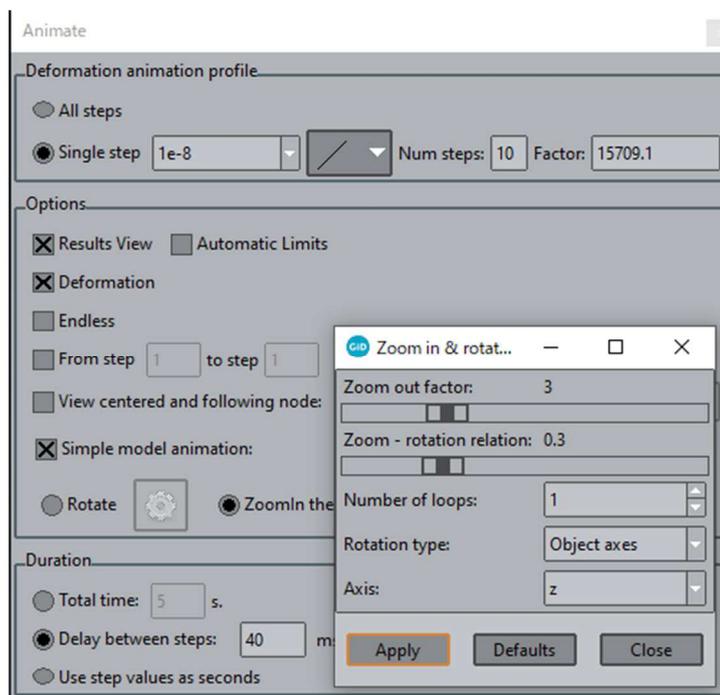
- ✓ 接触ボリュームが、穴のあるサーフェスにも実行されるようになりました。
- ✓ エンティティのスキップオプションが、NURBS サーフェス以外にも使用できるようになりました。

- ✓ オブジェクトの作成時に、既存の点を利用して半径や高さなどを定義できるようになりました。
- ✓ 3つの節点を指定して、半径や寸法を指定できるようになりました。
- ✓ エンティティをレイヤーに移動させる際に、“Also higher entities”オプションが追加されました。
- ✓ “DeleteAlsoLower”変数で、メニューやツールバーでジオメトリやメッシュの下位エンティティも削除できるようになりました。
- ✓ グループのエンティティの assign/unassign で、許可されたタイプのメニューのみを表示できるようになりました。
- ✓ グループのコンテキストメニューの“Allowd”メニューにより、グループに属することができエンティティタイプや要素タイプが設定できるようになりました。
- ✓ メッシュ作成のプロセスが改善され、メッシュ作成時のパフォーマンスと並列処理能力が向上しました。
- ✓ 空間オーバーラップのラベルが、赤色で描画されるようになりました。



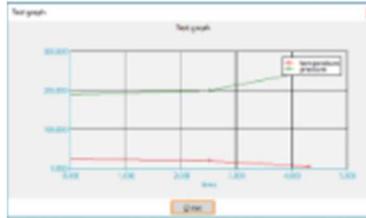
ポストプロセス

- ✓ グラフウィンドウで、コンテキストメニューにクリップボードコピーオプションが追加されました。これにより、Excel 等にグラフ値を簡単に貼り付けることができます。
- ✓ ポストプロセスビューでグラフにラベルを付けることができるようになりました。
- ✓ 折れ線グラフにおいて、“Line Projection”と“2D constraint”オプションが追加されました。
- ✓ 調和アニメーションのような、複雑なアニメーションがサポートされました。
- ✓ 結果ウィンドウの作成時に、“on gauss points”オプションでガウスポイント上の結果を表示できるようになりました。
- ✓ 統計結果ウィンドウで、root mean square がサポートされました。
- ✓ 反転選択がサポートされました。
- ✓ 多くのノードに最小値または最大値がある場合、ラベルを使用する代わりに、凡例で値が描画されるようになりました。
- ✓ デフォルトのマクロツールバーに GraphGaussResult が追加され、ガウスポイントの結果のグラフが作成できるようになりました。
- ✓ “Label Gauss Points”オプションで、ガウスポイントの ID と結果を表示できるようになりました。
- ✓ 結果アニメーションウィンドウに、3 つのシンプルなアニメーションが追加されました。



カスタマイズ

- ✓ .tcl ファイルを GiD にドラッグ&ドロップするとロード (source) されるようになりました。
- ✓ Gid_graph パッケージにより、ウィンドウグラフを簡単に表示できるようになりました。



- ✓ カスタマイズのための、多くの新しいスクリプトやイベントが追加されました。